

子どもの病気③

夏に多い感染症



宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

かちどき薬局のブログ
ameblo.jp/kachidoki-blog



Seedling 2019 6月号

エンテロウイルス感染症

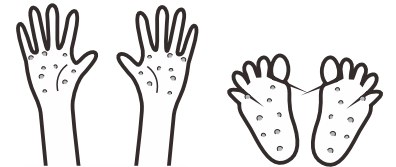
乳幼児を中心に夏に流行します。手足口病とヘルパンギーナが代表的な疾患です。

ウイルスの型がいくつもあるため、一度かかっても他の型のウイルスにより再度感染する可能性があります。

てあしくちびょう 手足口病

【主な症状】

- ・38度程度の発熱（熱がでないこともある）
- ・のどの痛み
- ・口腔内、手のひら、足の裏、ひざ、ひじ、お尻などに1~4mm大の水疱性の赤い発疹ができる



【治療方法】

対症療法のみで、発疹にかゆみを伴う場合は、抗ヒスタミン剤を使用します。

【合併症】

まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎などを起こすことがあります。元気がない、高熱が続く、頭痛、嘔吐などの症状が見られたら、すぐに病院を受診しましょう。

【登園・登校について】

目安は、解熱し、口腔内の水疱の影響がなく食事がしっかりとれることです。医師に相談し、登園・登校させましょう。

ヘルパンギーナ

【主な症状】

- ・突然の高熱（38度以上）
- ・のどの痛み、腫れ
- ・口腔内（主にのどの奥）に水疱ができ、その後つぶれて潰瘍となる
- ・のどの痛みが強いため、よだれが多くなったり、食欲がなくなる
- ・高熱が続くと倦怠感や関節痛が起こる



【治療方法】

対症療法のみで、発熱や頭痛などに対しては、解熱鎮痛剤を使用します。

飲食ができない場合は、点滴や入院が必要になることがあります。

【合併症】

高熱に伴う熱性けいれんが生じることがあり、まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎などを起こすことがあります。元気がない、高熱が続く、頭痛、嘔吐などの症状が見られたら、すぐに病院を受診しましょう。

【登園・登校について】

目安は、解熱し、口腔内の水疱の影響がなく食事がしっかりとれることです。医師に相談し、登園・登校させましょう。

アデノウイルス感染症

プール熱とはやり目が有名です。アデノウイルスには、50種類以上の型があり、型によって症状が異なります。下痢や膀胱炎を起こすものもあります。夏に流行することが多いですが、他の季節にもみられます。

プール熱(咽頭結膜炎)

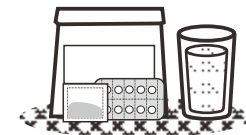
【主な症状】

- ・39度以上の高熱が3~4日以上続く
- ・のどの腫れ、痛み
- ・結膜炎（充血、目やに、痛み、かゆみ）



【治療方法】

対症療法のみで、高熱、のどの痛み、頭痛に対しては解熱鎮痛剤、結膜炎に対しては、抗菌薬の点眼を使用します。



【合併症】

まれに重い肺炎を起こすことがあります。

【登園・登校について】

発熱や結膜炎などの症状が消失した後、2日を経過し、医師の許可を得てから、登園・登校が可能です。

はやり目(流行性角結膜炎)

【主な症状】

- ・目の充血
- ・目やに、涙目
- ・まぶたのむくみ
- ・まぶしさを感じる
- ・耳の後ろのリンパ節の腫れ



【治療方法】

対症療法のみで、他の感染症を予防する抗菌薬の点眼や炎症を抑えるステロイド薬の点眼を使用します。



【合併症】

治りかけのころに、角膜に混濁を起こすことがあります。見づらい、かすむなどの症状があり、視力低下を起こしますが、子どもは訴えることが難しいため注意が必要です。

【登園・登校について】

医師に感染のおそれがないと認められたら、登園・登校が可能です。



家庭でのケア

・のどの痛みがある場合

食事はやわらかく、のどごしのよいものがおすすめです。酸味が強い、熱い、辛いなど刺激の強いものは避けましょう。

ゼリー、プリン、バナナ、うどん、おかゆ、そうめん など



・熱がある場合

水分補給を行い、脱水を防ぎましょう。

麦茶、湯冷まし、乳幼児用イオン飲料、経口補水液などの水分を少量ずつこまめに与えましょう。

・高熱でぐったりして元気がない場合

水分補給を促し、医師から処方された解熱剤を使用します。それでもぐったりしているようなら再度受診しましょう。

・目やにがひどい場合

手でこすらないようにして、清潔なガーゼや清浄綿で優しく拭き取り、目薬をさしましょう。

目やになどを拭いたティッシュも感染源となります。

ゴミの取り扱いにも注意しましょう。

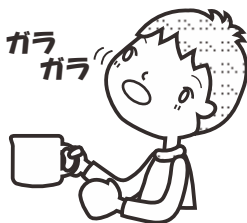


基本的な予防策

子どもが夏にかかりやすい感染症には、ワクチンがなく感染力が強いため、普段の生活での予防が大切です。

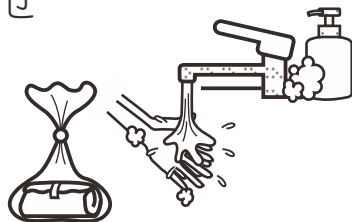
・手洗いとうがいをする

ウイルスは鼻水、唾液、便などに多く含まれます。石けんや流水による手洗い、うがいをこまめに行い、体内へ侵入させないようにすることが大切です。



・排泄物の取り扱いに気をつける

感染者の症状が消えた後も、2週間～1か月は便や唾液の中にウイルスがいます。しばらくの間は排便後の子どもの手洗いを徹底させましょう。また、おむつ替えの後には速やかにおむつを袋に入れ、石けんでよく手を洗いましょう。

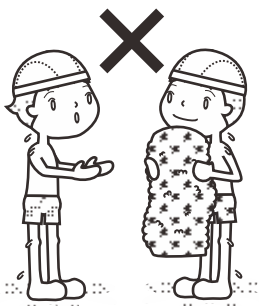


・規則正しい生活

免疫力を落とさないように3食しっかり食べて、睡眠を十分にとることが大切です。

・タオルを共用しない

特に水泳時はタオルの貸し借りをしないようにしましょう。家族に感染者がいる場合は、タオルや洗面器の共用は避け、入浴の順番は最後にしましょう。また、洗濯も別にした方が安全です。



こんな病気にも注意

虫さされ

夏は虫の活動が活発になり、虫に触れる機会も多くなります。子どもの虫さされは、大人より症状がひどく、長引きやすいです。

とびひ(伝染性膿痂疹)

虫さされ、あせも、湿疹などをひっかいたり、転んでできた傷に黄色ブドウ球菌や溶連菌などの細菌が入ることで発症します。水ぶくれやかさぶたができ、それが全身に広がります。

予防

虫よけ剤を使う

主成分:イカリジン	主成分:ディート
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢制限なし ・使用回数制限なし ・15%濃度のものは6～8時間有効 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢制限あり 6か月未満は使用不可 ・回数制限あり 6か月～2歳未満は1日1回 2歳～12歳未満は1日1～3回 ・30%濃度のものは6～8時間有効

清潔にする

汗を拭く	爪は短くしておく
<ul style="list-style-type: none"> ・汗はこまめに拭き取る ・可能ならシャワーを浴びる ・石けんはしっかりと泡立ててたっぷりの泡で洗う 	<p>爪が長いと皮膚を傷つけてしまい、細菌が入りやすくなる原因となる</p> 